

orchestra in residence schloss esterhazy eisenstadt

Haydn

ハイドン・

フィルハーモニー

Philharmonie

ヨーロッパの名門
9年ぶりの来日!
初の長野市公演!!
エステルハージーの至宝

©Nancy Horowitz

W.A. モーツァルト: 交響曲第41番 ハ長調 K.551「ジュピター」
F.J. ハイドン: チェロ協奏曲第1番 ハ長調 Hob. VIIb-1
F.J. ハイドン: 交響曲第94番 ト長調 Hob. I-94「驚愕」

指揮/チェロ ニコラ・アルトシュテット
Nicolas Altstaedt

管弦楽 ハイドン・フィルハーモニー
Haydn Philharmonie

2018.6.28 木 開演19:00
(18:30開場)



長野市芸術館
NAGANO CITY ARTS CENTER

メインホール

SS:¥4,000 S:¥3,000 A:¥2,000(全席指定・税込)

U-25シート SS:¥2,000 S:¥1,500 A:¥1,000 ※未就学児入場不可

*公演当日25歳以下対象。入場時に身分証明書の提示を求める場合がございます。

チケット NCACチケットオンライン先行発売 2018年3月8日(木)10:00~
発売日 一般発売 3月10日(土)10:00~

NCACチケットオンライン [インターネット販売](http://www.nagano-arts.or.jp/) <http://www.nagano-arts.or.jp/>
NCACチケットセンター [窓口・電話](tel:026-219-3191) tel:026-219-3191 [10:00~19:00/火曜定休]
ローソンチケット <tel:0570-000-407> (Lコード:34035) e+(イープラス) <http://eplus.jp>
ながの東急プレイガイド【窓口販売】 ヒオキ楽器本店シャコンス【窓口販売】

●出演者・曲目・その他に変更が生じる場合がございます。●不可抗力による公演中止の場合を除き、本券の払い戻し、他公演との交換はいたしません。●車椅子席をご希望のお客様はNCACチケットセンターへお問い合わせください。●駐車場(有料)には限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

主催: 一般財団法人長野市文化芸術振興財団/プロ アルテ ムジケ

エステルハージーの至宝

当日ロワイエにて
同時開催!!

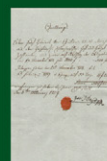
ハイドン展

THE LEGEND OF HAYDN

交響曲の父F.J. ハイドンが楽長として仕えたオーストリア=ハンガリーの名家エステルハージー、ハプスブルク帝国、オーストリア=ハンガリー帝国、東西冷戦の激動の時代を超えて現存するエステルハージー家の至宝を当日ロビーに展示いたします。



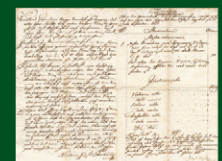
ハイドンの肖像画



ハイドンが署名した現金受取



エステルハージー公爵の肖像画



ハイドンが署名した楽譜・楽器所蔵目録

*写真はイメージです。実物と異なる場合があります。

1987年東西冷戦下、巨匠アダム・フィッシャーがオーストリアとハンガリーの選りすぐりの音楽家を集めて結成。その結成には「音楽で国境を克服する」という和平への想いが込められている。

2015-16シーズンから、注目のチェリスト、ニコラ・アルトシュテットにフィッシャーからバトンが受け継がれ、ハイドン・フィル新時代を築いている。

orchestra in residence
schloss esterhazy eisenstadt



©Marco Borggreve

ニコラ・アルトシュテット (指揮/チェロ)

同世代の音楽家の中でもっともエキサイティングで成功している若手アーティスト。また、ソリストであり指揮者でもあるという、現在の音楽界が要求するマルチアーティストとしても、バロックから現代にいたるレパートリーで観客を魅了する。

指揮者としては、2018年6月のハイドン・フィルハーモニーを率いての来日をはじめ、スコットランド室内管弦楽団、ベルギー国立管弦楽団、香港シンフォニエッタ、レ・ヴィオロン・デュ・ロワでタクトをとり、ソリストとしては、2017 / 18年シーズンでは、ヘルシンキ音楽祭でエサ＝ベッカ・サロネン作曲指揮で新しいチェロ協奏曲のフィンランド初演を果たし、続いてフィルハーモニア管弦楽団にも同曲でデビュー。以後ヨーロッパやアメリカでの有名オーケストラとのツアーを経て、2019年には読売日本交響楽団との共演も予定されている。

一方はドイツ系、もう一方はフランス系にルーツを持つ家庭で1982年に生まれた彼は、ギドン・クレーメルらと活躍した高名なロシア人チェリスト、ボリス・ベルガメンシコフの最後の弟子のひとりとしてベルリンで学び、その後エバールハルト・フェルツのもとで研鑽を積む。

いくつかの国際音楽コンクールで優勝を果たした後、2009年ボルレッティ＝ブイトー＝財団賞を受賞。2010年初めには、クレディ・スイス・ヤング・アーティスト賞に輝き、ルツェルン音楽祭において、シューマンのチェロ協奏曲をグスターボ・ドゥダメルが指揮するウィーン・フィルハーモニー管弦楽団と共演する栄誉が与えられた。

2010年9月初めより、アルトシュテットは数少ないBBCの新世代アーティスト・スキームの仲間入りをしている。この賞には、イギリスの主要な音楽祭やコンサートホールにおけるBBC交響楽団との共演が含まれている。

2012年からは、ギドン・クレーメルのすすめを受け、ロッケンハウス室内楽フェスティバルの新芸術監督としてクレーメルの後継者となった。

その後の活躍は、N.マリナー、N.ヤルヴィ、R.ノリントン、D.ラッセル・デヴィス、A.フィッシャー、V.フェドセーエフ、V.アシュケナージやA.ボレイコの指揮のもと、チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団、ウィーン交響楽団、シモン・ボリバル交響楽団(旧ユース・オーケストラ)やバンベルク交響楽団、メルボルン交響楽団、ニュージーランド交響楽団、ベルリン放送交響楽団、モスクワ放送交響楽団などとの共演があげられる。

2011年から2012年は、J.テイト指揮トーンキンストラ管弦楽団との共演で、ウィーン楽友協会にデビューし、ドイツ連邦ユース・オーケストラとはドイツおよび中国全土のツアーを行った。A.デービス、M.ブラビンス、M.ピンチャーがそれぞれ指揮するBBC交響楽団、また、オークランド・フィルハーモニー管弦楽団、ジャン＝クロード・カサドシュ指揮リール国立管弦楽団などとも共演した。

そして2014年、ハイドン・フィルハーモニーの芸術監督をアダム・フィッシャーから継ぐ。

アルトシュテットは、現代の作曲家への深い共感も持ち、クルターグ・ジェルジュ、イェルク・ヴィトマン、モーリッツ・エゲルト、ソフィア・グバイドゥリナ、トーマス・アデス、HKグラーバー、トーマス・ラルヒャー、ラファエル・マリーニとファジル・サイラ作曲家とのコラボレーションも多い。

室内楽において頻繁に共演する演奏家は、アレクサンダー・ロンクウィヒ、ホセ・ガヤルド、ベッカ・クーシスト、バルナバ・ケレメン、ユーリ・バシュメット、エベヌス四重奏団など。また、ニューヨークのリンカーン・センター室内楽協会では数少ないヨーロッパ人メンバーとして2009～2012年シーズンを務めた。

CDにおいても、C.P.E.バッハのチェロ協奏曲を録音し、2017年にBBCミュージックマガジン誌の「協奏曲賞」を受賞するなど、コンチェルトのレコーディングではつねに高い評価を得ている。

使用楽器は1760年頃のジュリオ・チェーザレ・ジェリ。

1987年、指揮者アダム・フィッシャーのもと、ウィーン・フィルとハンガリー国立フィルのメンバーによって設立。鉄のカーテンが崩壊する前の当時、「オーストリア、ハンガリー両国の選りすぐりの音楽家を集め、ハイドンの作品とともに演奏することで音楽的に国境を克服しよう」というフィッシャーの考えのもと、一流の演奏家たちが集結した。

2015 / 16年シーズンからは、ニコラ・アルトシュテットが芸術監督を務め、オーケストラの名称も「ハイドン・フィルハーモニー」とだけ表記されるようになる。16 / 17年シーズンは、エスターハーギー城でのハイドン《天地創造》公演やオーストリア放送協会によるベートーヴェン《フィデルリオ》の生中継、7公演におよぶ中国ツアー、マルク・ミンコフスキ、ミッコ・フランクなどの指揮者や、アレクサンダー・ロンクウィヒ(ピアノ)、フランソワ・ルルー(オーボエ)、シャロン・カム(クラリネット)ら、いまもっとも注目を集める指揮者・ソリストたちとのウィーンをはじめヨーロッパ各地での共演が、特筆すべき活動となった。

本拠地はアイゼンシュタット、エスターハーギー城内のハイドン・ザール(ハイドンが多くの曲を生み出した場所)に置かれている。オーケストラは、ハイドンがエスターハーギー城の音楽監督を務めていた当時より少し多い45名で構成され、ハイドンおよび同時代の作曲家による作品、ロマン派、現代作品、ハイドンのオペラ、またアイゼンシュタットで行われるハイドン・フェスティバルを忠実に再現したプログラムによるコンサートで、中央

ヨーロッパにとどまらず、世界中の聴衆を魅了しつづけている。

ウィーンのコンツェルトハウスや楽友協会、ブダペスト春の音楽祭、BBCプロムス(ロンドン)、モーストリー・モーツァルト・フェスティバル(ニューヨーク)など、多くの国際音楽祭にも招かれ、さらに、オーストリア、ハンガリーをはじめヨーロッパ各国、アメリカ、日本でのツアーではつねに高い評価を受け、世界で唯一無二のハイドンオーケストラとしての地位を確立した。

1987～2001年ハイドンの交響曲全曲をニムバス・レコードにて収録。この中の第40～54番のレコーディングは、グラモフォン誌の「年間最優秀賞」の栄誉に輝いた。2004年よりダブリングハウス・ウント・グリムにてサラウンド・サウンド技術を駆使したハイドンの《ロンドン交響曲》の再収録に取り組み。このシリーズの最初の2つのリリースは、それぞれ2006、2008年の「エコー・クラシック賞」を受賞。グラモフォン誌の「年間最優秀賞」を再度受賞した。

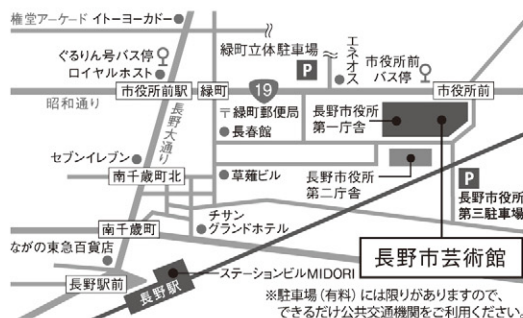
ハイドン・イヤーであった2009年、エスターハーギー城におけるハイドン没後200年記念《天地創造》演奏会の模様は世界各国へ中継放送され、(日本ではNHKが放映)さらなる注目を浴びた。11、12月の日本ツアーのほか、ウィーン・コンツェルトハウス、バレー・オブ・アーツ(ブダペスト)、ルクセンブルク・フィルハーモニー音楽堂、国立音楽堂(マドリッド)他に招かれての演奏、またスイス、ドイツでのツアーなどいづれも高評を得ている。



©Nancy Horowitz

ハイドン・フィルハーモニー (管弦楽)

公演についてのお問い合わせ: (一財)長野市文化芸術振興財団 <http://www.nagano-arts.or.jp/>
TEL:026-219-3100 [9:00～19:00/火曜定休] info@nagano-arts.or.jp



長野市芸術館
NAGANO CITY ARTS CENTER

〒380-8512 長野県長野市大字鶴賀緑町1613番地

- | | |
|----|--|
| 電車 | 長野電鉄長野駅(駅前ロータリー)より、アルピコ交通 [45]北屋島行き [46]大豆島東団地行き・保科温泉行き [48]金井山行き・金井山経由松代温泉行きに乗り、「市役所前」バス停で下車、歩道橋を渡ってすぐ(乗車時間約5分、徒歩約1分) |
| 徒歩 | 長野大通りを権堂・善光寺下方面へ進み、「市役所前」交差点を右折(約850m、約15分) |
| バス | ◎長野駅4番乗り場(駅前ロータリー)より、アルピコ交通 [45]北屋島行き [46]大豆島東団地行き・保科温泉行き [48]金井山行き・金井山経由松代温泉行きに乗り、「市役所前」バス停で下車、歩道橋を渡ってすぐ(乗車時間約5分、徒歩約1分)
◎7番乗り場(アルピコ交通長野駅前総合案内所前)より、中心市街地循環バス「ぐるりん号」(一方方向循環)に乗り、「市役所前」バス停で下車、長野大通りを長野駅方面へ戻り、「市役所前」交差点を左折(乗車時間約5分、徒歩約5分、約300m) |
| 車 | ◎上信越自動車道 長野ICから20分程度 ◎上信越自動車道 須坂長野東ICから25分程度 |

※駐車場(有料)には限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。